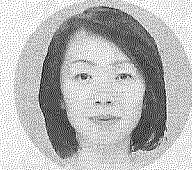


琉球新報 2016年2月28日



佐藤 未雲 株式会社スペースチャイナ代表

乳幼児から小学生までを預かっている。勉強する親の姿を見て、親に対する尊敬や理解が生まれ、自

6人に1人の子どもが貧困といわれている日本。親の所得格差が子どもの学力格差意識の格差を生むというデータもある。今年に入って、新聞やテレビなどで子どもの貧困が話題となり、沖縄県でも子どもへの貧困対策推進に27億7千万円の予算が計上された。わが社は2013年度から、ひとり親家庭技能習得支援事業(中国語技能習得支援)を実施してきた。親子型支援のために、親子一緒に登校し、親の受講中に子育て支援も行うというのが本事業の特徴である。親が受講する教室と同じ建物に託児所を設置して、

子どもたちに夢と希望を

東風

然に共通の話題が増えたといううれしい報告もあった。

大学進学を諦めていた娘が、母親の検定試験に向け勉強する姿に心打たれ、再度受験し合格したケースもあった。親が受講している間、子どもたちには絵本の読み聞かせや工作、小学生には宿題の取り組み等をさせている。生活のリズムをつくること、その子の得意なものを伸ばすようにすることを心がけている。とは言え、ひとり親家庭では、経済的な問題や子どもにかける時間の少なさ等からくる学力不足、いじめの問題を抱えていることが多い。それ

をどう解決していくか大きな課題である。大学受験に至るまでの幼少期の基礎づくりの大切さを痛感させられる。

最近、受講生の間でこんなことがあった。皆でそろって初詣に出掛けたり、公文書館で中国文化について調べたりと、親子の生き生きとした自主的な活動の姿が見られた。この小さな変化が大きな自信となり、意識や生活の向上につながっていくのではないだろうか。進み行く少子高齢化の中で全ての子どもたちに豊かな教育環境を提供し、夢と希望を育むことの重要性を考えさせられている。

1972年中国黒龍江省生まれ。20歳で家族と残留邦人の母の故郷沖縄へ引き揚げ。24歳で株式会社スペースチャイナ設立、2008年専門学校スペースチャイナ外国語学院創立開校。3児の母。09年7月から12月まで「南風」執筆。

◆このコラムは「南風」執筆者OB・OGが担当します。